

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No393

## 総合的な探究と進路・キャリアとの関連を探る 酒井淳平先生（立命館宇治中学校・高等学校教諭）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問  
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

## 立命館宇治中学校・高等学校 数学科教諭



酒井淳平

さかい じゅんぺい

立命館中学校・高等学校を経て2008年4月より現職。  
2025年度～福井大学連合教職大学院大学院生。  
2025年10月～ 中央教育審議会 初等中等教育分  
科会教育課程部会 生活、総合的な学習・探究の時間  
ワーキンググループ委員

単著『高等学校 新学習指導要領 数学の授業づくり』(明治図書, 2022), 編著『探究的な学びデザイン』(明治図書, 2023), 『「探究」の現在地とこれから 高等学校 探究時代のキャリア教育と教科学習のデザイン』(明治図書, 2025) など





酒井淳平 (編) (2025). 「探究」の現在地とこれから—  
高等学校 探究時代のキャリア教育と教科学習のデザイン—  
— 明治図書



酒井淳平・梨子田 喬 (編) (2024). 高等学校 探究が進む  
学校の作り方—探究学習を学校全体で支えるために—  
— 明治図書

酒井淳平 (著) (2023). 探究的な学びデザイン—高等学校  
総合的な探究の時間から教科横断まで— 明治図書



**No359**



# 自己の在り方生き方を踏まえた 探究的な学習を目指して

高澤良輔先生  
(芝浦工業大学柏中学高等学校 教諭)



動画チャンネル「溝上慎一の教育論」

それではご覧ください

# 探究と進路のつながりを考える ～生徒へのアンケートから（報告1）～

---

立命館宇治中学校・高等学校  
酒井 淳平

「探究と進路のつながり」 ・ ・ 高校の総探で最近言われるキーワード

「生徒はどう思っているのだろうか？どのように認識しているのだろうか？」

「そもそも生徒が探究と進路のつながりを考える機会ってありそうでない？」



調査してみよう！

- \* 生徒が探究と進路のつながりを考える機会とする
- \* 教員が生徒の認識を把握する機会とする

# 実践の概要

**実施時期**：高3総合探究、最後の授業

**対象生徒**：260名（欠席生徒除く）

**実施方法**：以下の①～④の流れで、合計20分弱で実施

- ①教員から説明
- ②生徒が質問に答える
- ③生徒同士の意見交換
- ④生徒がアンケート回答

## 生徒に聞いた質問

- \* 表現方法（論文orプロジェクト）、
- \* 探究と自分の進路のつながり（もっとも当てはまる、当てはまるものすべて）、
- \* 探究と進路につながりについて、「いつ・何が・どのように」影響したのか、
- \* コア探究の学びが大学以降の生活にどのようにいかせそうか、
- \* 3年間のコア探究を終えての感想や成長      \* 後輩にアドバイス

## 設問の詳細

- 設問 1 : または論文プロジェクトのどちらを選びましたか？
- 設問 2 : コア探究と自分の進路のつながりについて、  
もっともあてはまるものを1つ選んで教えてください。
- 設問 3 : コア探究と自分の進路のつながりについて、あてはまるものをすべて  
選んで教えてください。
- 設問 4 : 探究と進路につながりについて、「いつ・何が・どのように」影響  
したのか、簡単に書いてください。
- 設問 5 : コア探究の学びが大学以降の生活にどのようにいかせそうか書いてください。
- 設問 6 : 3年間のコア探究を終えての感想や成長を簡単に書いてください。
- 設問 7 : これからコア探究を学ぶ後輩にアドバイスをお願いします。

## 回答結果「もっともあてはまるもの」



- 1, **17人(6.54%)** 探究が進路選択に直接影響した (探究 → 進路)
- 2, **30人(11.54%)** 進路を意識して探究テーマを決めていた (進路 → 探究)
- 3, **10人(3.85%)** 探究の「中身」より、取り組み方が進路につながった (探究のプロセス → 進路)
- 4, **29人(11.15%)** 探究を通して「自分の興味・特性」がはっきりした (自己理解 → 進路)
- 5, **37人(14.23%)** テーマを決めた当時はつながりを意識していなかったが、振り返るとつながっていた (後から気づく)
- 6, **137人(52.69%)** 探究と進路は別だが、意味のある経験だった (直接のつながりはない)

## 回答結果「あてはまるものすべて」



- 1, **35人(7.64%)** 探究が進路選択に直接影響した  
(探究 → 進路)
- 2, **36人(7.86%)** 進路を意識して探究テーマを  
決めていた (進路 → 探究)
- 3, **39人(8.52%)** 探究の「中身」より、取り組み方  
が進路につながった (探究のプロセス → 進路)
- 4, **85人(18.56%)** 探究を通して「自分の興味・特  
性」がはっきりした (自己理解 → 進路)
- 5, **53人(11.57%)** テーマを決めた当時はつながりを  
意識していなかったが、振り返るとつながっていた  
(後から気づく)
- 6, **158人(34.5%)** 探究と進路は別だが、意味のある  
経験だった (直接のつながりはない)

## おまけ（「もっとも当てはまる」論文とPJ別集計）

	論文	%	PJ	%	合計	%
①	7	4.05%	10	11.49%	17	6.54%
②	25	14.45%	5	5.75%	30	11.54%
③	9	5.20%	1	1.15%	10	3.85%
④	18	10.40%	11	12.64%	29	11.15%
⑤	24	13.87%	13	14.94%	37	14.23%
⑥	90	52.02%	47	54.02%	137	52.69%
	173		87		260	

- ①探究→進路
- ②進路→探究
- ③探究のプロセス→進路
- ④自己理解→進路
- ⑤あとからつながりに気づく
- ⑥直接のつながりはない

### <なんとなくの仮説>

- ・論文は進路を意識してテーマ決めやすい？
- ・PJのほうが探究が進路につながりやすい？
- ・取り組むプロセスが進路につながりやすいのは論文？
- ・自己理解は、ややPJ？

## 生成AIに分析してもらいました① (客観的視点がほしかった)

(1)まず全体像：「探究は、進路を“決める材料”にはなりにくいですが、**自己理解や意味づけの経験としては強く機能している**」

### (2) 分類別の読み取り

①+②【直接接続層】 ① 探究 → 進路：6.54% ② 進路 → 探究：11.54%

👉 探究と進路が明確に直線で結びついた生徒は少数派。でも「ゼロではない」。これは「**探究=進路決定ツール**」という単純モデルが成立しないことを、生徒側データで示している。

③【プロセス接続層】 取り組み方が進路につながった：3.85%

👉 テーマ一致ではなく、**学び方・考え方が進路に影響**。探究の「中身重視」設計へのアンチテーゼになる。

④+⑤【自己理解・意味化層】 ④ 興味・特性が明確：11.15% ⑤ 後から気づく：14.23%

👉 今回の実践の一番の成果ゾーン。これははっきり言って、**探究は「学部選択装置」ではなく「自己理解を促す学習経験**」という主張を、数値で裏づけています。

## 生成AIに分析してもらいました② (客観的視点がほしかった)

### (3) この結果から言える「強い主張 (論文向け) 」

整理すると、主張は3層で立てられます。

主張①：探究学習は、進路と直接的に接続される場合は少数である  
→ 従来の「探究 = 進路に役立つ」単線モデルへの再考

主張②：探究の主な価値は、自己理解や後からの意味づけにある  
→ ④・⑤が約3割を占める点が決定的

主張③：探究と進路が直接つながらなくても、学習経験としての価値は保持される

「いつ・何が・どのように」影響したのか、簡単に書いてください。  
→この回答を生成AIに貼り付けた分析は以下の通り

## ● 「接続の型」6類型の中身

### A. ①探究→進路（直接型）は「テーマ一致+決定打」

例：「オーバーツーリズム→法/政策」「西陣織/観光→文学部地域観光」「AI→情報系」  
特徴：「具体テーマ → 学部名」が明言されやすく、時期も「高3初め」「夏休み」など書けている。

### B. ②進路→探究（逆算型）は「志望が先に固まっている層」

「○○学部志望だったのでテーマを寄せた」「入学前から決まっていたので常に影響」  
特徴：「探究が進路を動かした」ではないが、探究が“学部の予習/練習”として機能している。

### C. ③プロセス→進路は「方法・姿勢・研究作法」が核

多い語彙群：調査方法／情報収集／エビデンス／多角的視点／試行錯誤／改善／計画性／  
スケジュール／問いを立てる／根気強く考える／文章構成

例：「判例や条文を分析して結論を構築する法学の思考方法と通じる」  
「0→1を生み出すプロセスが薬学の新しい薬を生み出すのと同つながる」  
⇒量的結果で③の“山が小さめ”だったのに対して、自由記述では存在感が大きい。  
=選択肢で③に入れたがらない（④や⑥に吸われる）可能性があります。

「いつ・何が・どのように」影響したのか、簡単に書いてください。

→この回答を生成AIに貼り付けた分析は以下の通り

**D. ④自己理解→進路は「好き/面白い/価値観」に言語が寄る**

「向き不向き」より「好きが分かった」が強いです。

例：「自然環境や動物を守りたいと気づいた」「人とのつながりが好きという価値観に気づいた」  
「自分の興味が経営にあると再確認」

**E. ⑤後から気づく（回顧型）は「終盤・終了後」がトリガー**

「論文を書き終えてから気づいた」「終盤になって関係していると気づいた」

「よく考えてみるとマーケティングだった」

⇒“いま”つながる、というより“後から意味が立ち上がる”書き方。

**F. ⑥直接つながらないが有意味（非接続肯定型）は2種類に割れる**

⑥-1：技能・作法の獲得（大学/社会で生きる）

論文の書き方、先行研究、情報収集、プレゼン、マナー、メール、電話、企業連携、アポ取り

⑥-2：経験の価値（世界の見え方、視点、出会い）

「世界の見え方が変わった」「普段関わらない人と話して新しい世界が見えた」「視点が増えた」

※ここは「キャリア接続」を“学部接続”に狭めない方がいい、という示唆になります。

⑥ 「探究と進路は別だが、意味のある経験だった」

- ⇒ 「意味がある」とは何なのか？  
(選択しにありから消極的に選んだだけかもしれない)
- ⇒ 再び、生成AIで分析。

## 「直接のつながりはないが、意味のある経験だった」

by 生成AI

結論から言うと、⑥「別だが意味がある」は 👉 “つながっていない”のではなく、“つながり方の言語を持っていない／遅れている”層として読むのが一番筋が通る。

### <生徒が語る「成長・価値」5つのカテゴリー>

- A | **スキル・方法獲得型（最頻）** 例：論文の書き方／調べ方、データ収集・分析、計画、情報の取捨選択  
👉 進路選択には使っていないが、大学以降の学びの土台という自覚はかなり明確。
- B | **態度・姿勢形成型** 例：粘り強さ、主体性、0→1、試行錯誤、失敗からの改善  
👉 これは完全にキャリア形成の基盤だけど、「学部選択」とは切り離して語られている。
- C | **社会・他者接続型（PJに多い）** 例：大人との関わり、マナー、初対面で話す、社会の現実を知る  
👉 「大学より社会」「働くこと」に結びついているという語りが多い。
- D | **自己理解・興味拡張型** 例：好きがはっきりした、興味の幅が広がった、政治・社会が身近になった  
👉 ⑤「後から気づく」との境界領域。時間差で進路に効く可能性が高い。
- E | **本当に“別”と認識している層（少数）** 例：進路は親・趣味・別要因、特に影響はない  
👉 ただしこの層も価値や経験自体は否定していないのが重要。

# この結果が示している“決定的な示唆”

by 生成AI

## ① 探究＝進路選択、という設計自体がズレている可能性

生徒の実感は：探究は学び方、考え方、関わり方を変えた

👉 進路選択の「前段階」を支えている。

## ② 「つながり」は“後から気づく”設計にしている。⑤と⑥の差は、言語化タイミングの差

👉 高3時点で「まだ別だと思っている」こと自体が自然。

## ③ 高2まででできる最大の改善点

ここまで読んで確信できるのは、高2までに「この学びは、どこに持ち越されるか」を言語化する機会が圧倒的に少ないだから⑥になる。

## ④ 探究と進路の大切な見方

✖ 「探究と進路は直接結びつかなかった生徒が多い」

○ 「探究は進路選択に直結しない場合でも、学びの方法・態度・社会的関係性を形成する経験として高い意味づけがなされていた」

## ⑤ 生徒は「進路」を“学部選択”としてしか捉えていない

設問6の記述を読む限り、生徒の認識はかなり一貫してる。進路＝学部・職業、探究＝学び方・経験・姿勢

# 生徒が語る「成長・価値」8カテゴリ①

by 生成AI

## 1) 達成感・やり切り (最頻)

「大変だったけど達成感」「最後までやりきれた」「長い時間をかけて完成」

👉 3年間 (特に高3) の設計が「長期でやる」ことに意味を持っている。

## 2) 主体性・行動力 (受け身→能動の転換) <この層が厚いのが、コア探究の強み>

「受け身だったけど能動的に」「自分からアクション」「一歩踏み出す大切さ」

👉 さっきの進路接続の⑤⑥を“救う”根拠になる (進路決定は動かなくても、人が動いている)。

## 3) 探究の型 (問い・課題発見・プロセス)

「問いを立てる」「課題発見→調べる→実行→振り返り→発表」「過程が意味」

👉 ここがあるから、設問5で「大学で使える」につながる。

## 4) 表現・文章 (論文/8000字/要約/構成/根拠) 論文系のコメントに特に強い。

・「文章力が上がった。「構成」「起承転結」「根拠を強める」「長文を書く経験」

👉 論文型の教育効果を示す生徒の声として超使える。

## 生徒が語る「成長・価値」8カテゴリ②

by 生成AI

- 5) **協働・対話・チーム（合意形成、強み弱み、葛藤の乗り越え）** PJ系の強みが出る。  
「みんなで話し合い」「納得できる成果物」「揉めないように意見を取り入れる難しさ」  
「グループの方が発想が広がる」  
👉 さっきの「論文/PJで違う」結果ときれいに整合する。
- 6) **社会接続・外部との関わり（礼儀、企業連携、アポ、社会勉強）**  
「農家さんなど外部の人」「企業との関わり」「礼儀・敬語・メール」  
👉 ここは設問5でも出てた。つまり **成長（6）→転移（5）** が同じ要素でつながる。
- 7) **視野の拡大・世界観の変化（認知的変容）**  
「視野が広がった」「世間の見え方が変わった」「新たな視点に触れた」
- 8) **メタ認知（振り返りの質・限界の自覚・改善点）** “学びとしての反省”が多い。  
「計画性がなかった」「もっとやれた」「準備が全て」「自由だからこそ自制心」  
👉 探究の成熟度を示すデータになる。

## ここから考察できそうなこと

- 探究は進路“選択”にはつながらないが、進路“形成”の前提となる変容が起きている場合が多い。
- 探究は進路選択に直結しない場合でも、学びの方法・態度・社会的関係性を形成する経験として高い意味づけがなされていた。
- 生徒は進路 = 学部・職業ととらえているかもしれない。そして探究は学び方・経験・姿勢と認識している。だから⑥の生徒にこうしたコメントが多く出る

⇒ 「探究は、進路を決める授業ではない」「でも、進路を考えられる自分をつくる授業ではある」

# 今後に向けて

現状は、アンケートを単純集計して生成AIに仮説を作ってもらったにすぎない。今後は①②

①学校の教育内容の向上 = キャリア教育や探究のあり方を考える材料にしたい。

例) 高2までにどんな取り組みがあれば、生徒がどんな言葉を持てば、⑤（あとからつながりに気づく）  
⑥（直接のつながりはない）という生徒が変わるのか？について仮説を立てて実践。

例) 年1回でいいから「この経験は、いつ・どこで使われそうか」を振り返らせる

例) 高2までのカリキュラムの見直し

②総合的な探究の時間と生徒のキャリア発達とのつながりについて研究し、その知見を深める。  
（中教審ワーキング資料のピンクのところ） **アドバイスお願いします！！！！**





